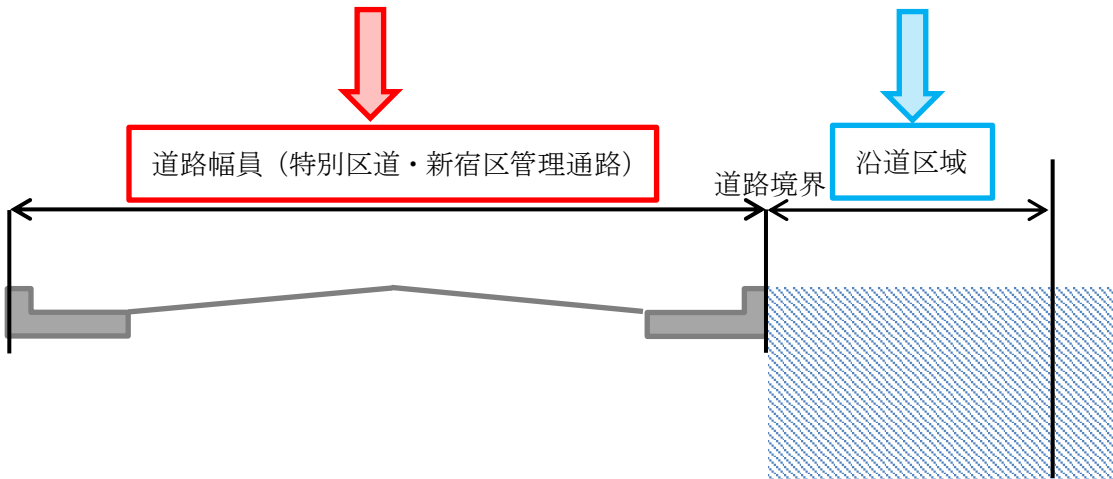


○沿道掘削施行協議書【資料編】

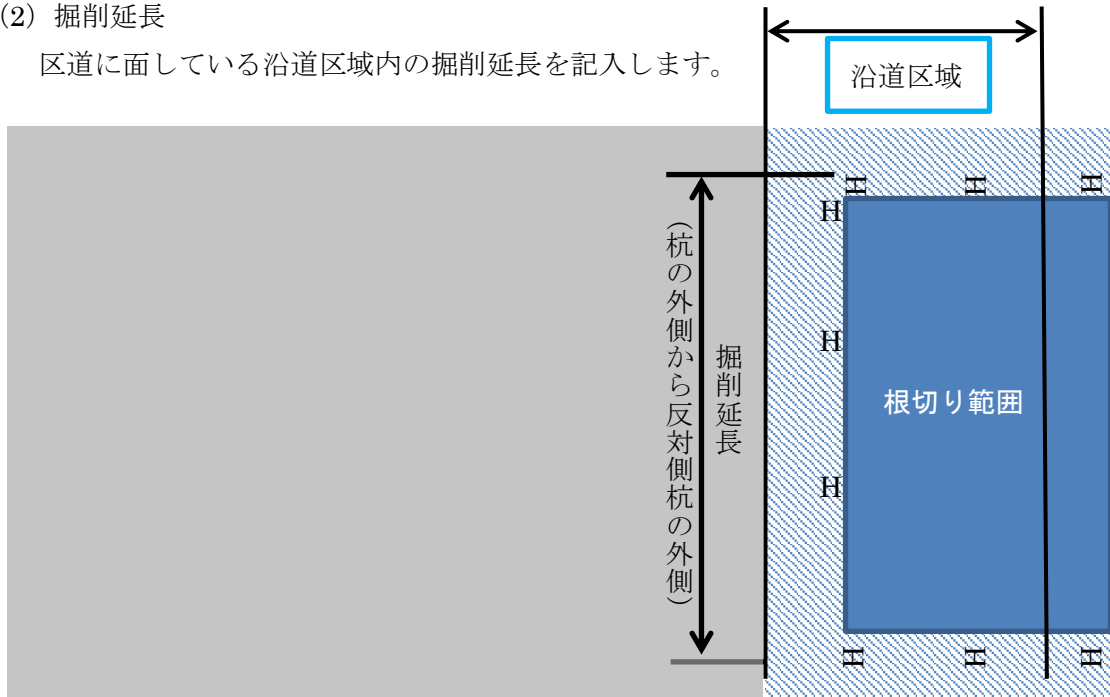
(1) 沿道区域

	道路幅員	沿道指定区域
1	前面の道路幅員が6m未満の場合	敷地境界線より道路幅員の1/2
2	前面の道路幅員が6m以上20m未満の場合	敷地境界線より3m
3	前面の道路幅員が20m以上の場合	敷地境界線より5m
4	道路の屈曲部で、その中心半径が10m未満の場合	屈曲部の内側10m
5	並木、密生した樹木、竹林が路線にある場合	その側に10m
6	道路に接続して高擁壁がある場合	擁壁高の1.5倍、最大20m
7	道路に接続して、採石場等危険な場所がある場合	その側に20m



(2) 掘削延長

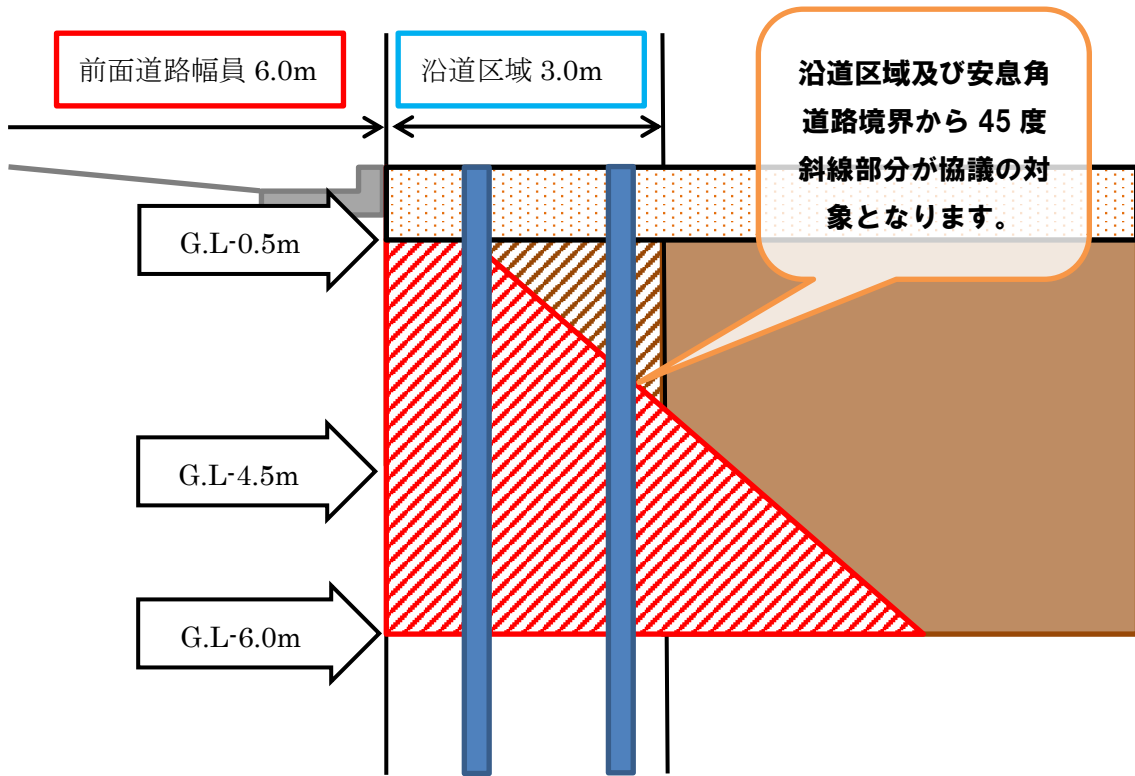
区道に面している沿道区域内の掘削延長を記入します。



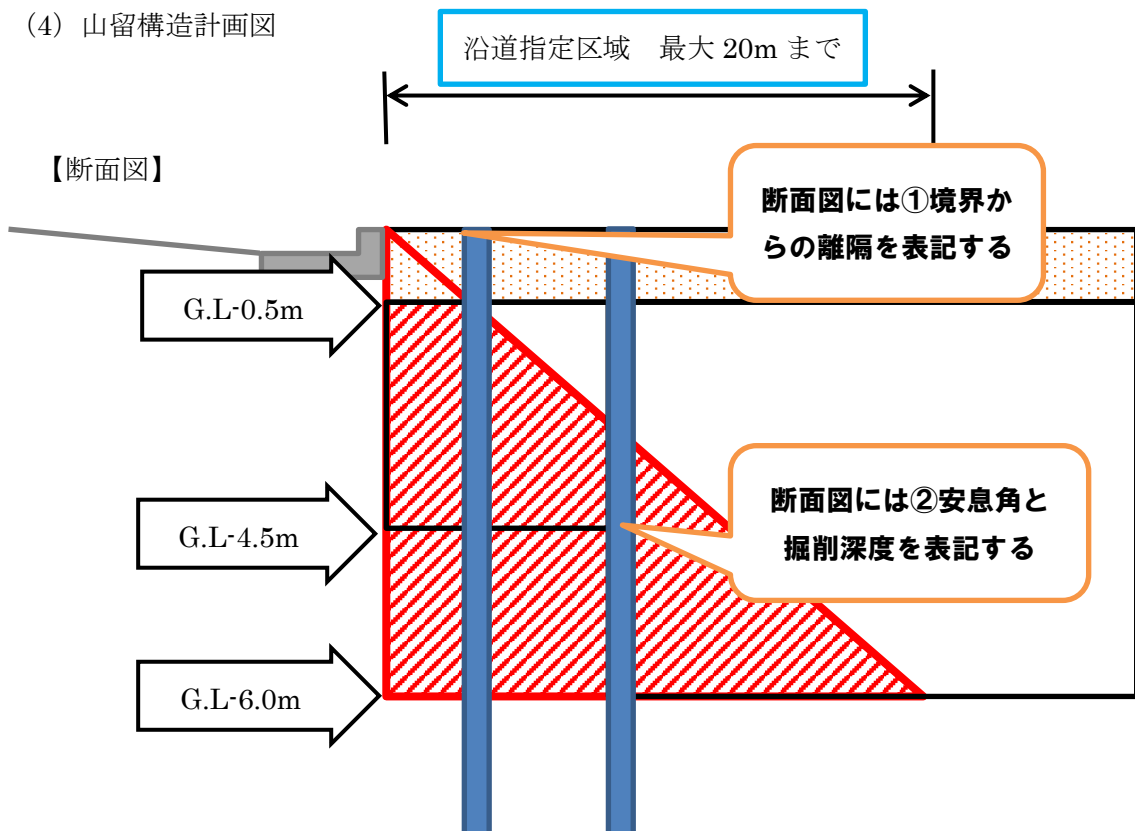
(3) 掘削深度

協議現場の道路安息角内の最浅深さと最深深さを記入します。

例：前面道路幅員 6.0m 沿道区域 3.0m 掘削深度 G.L-4.5m ~ G.L-6.0m

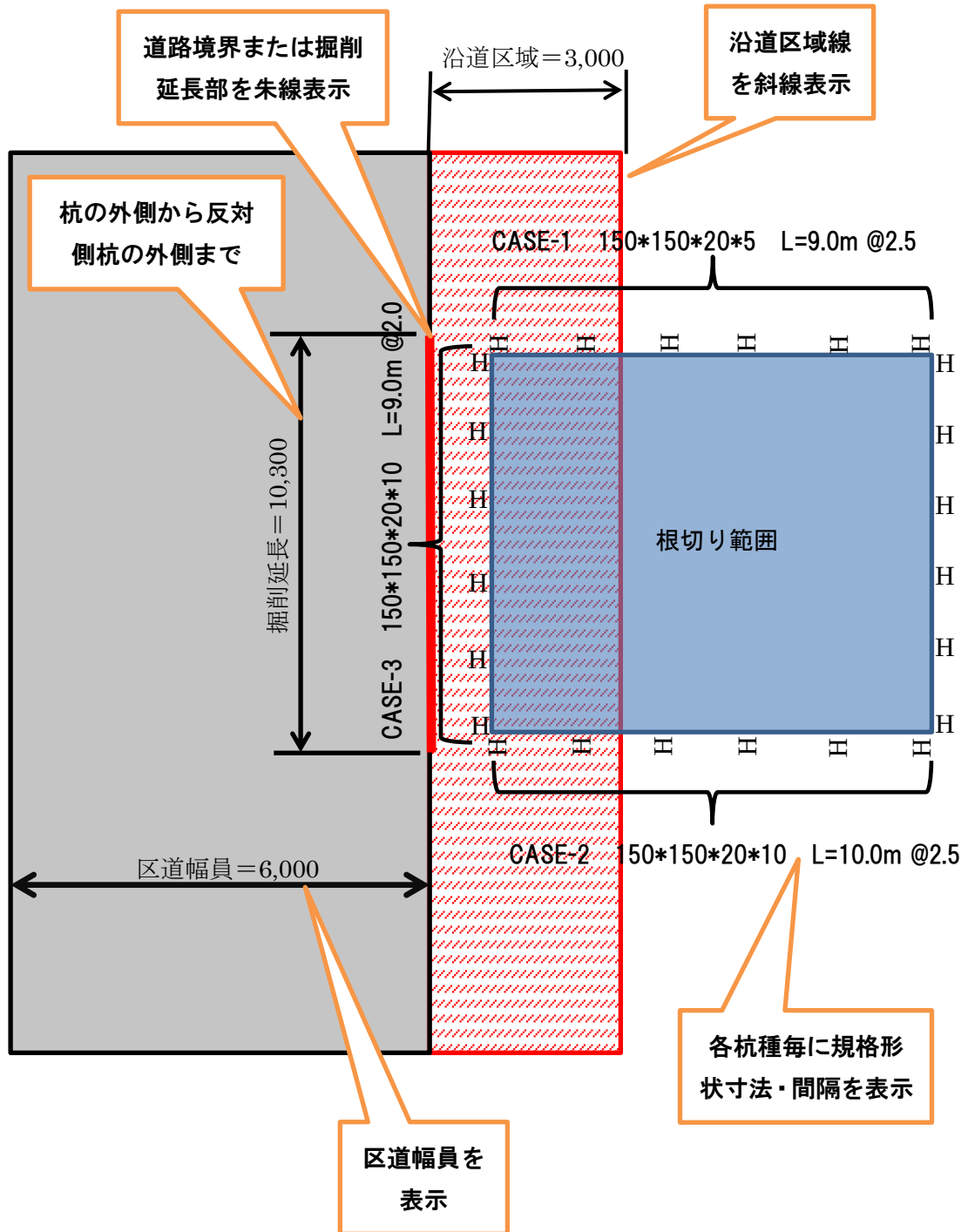


(4) 山留構造計画図



【計画平面図】

計画平面図に道路幅員、掘削延長、沿道区域、杭形状寸法等を図示します。



(4) 道路現況図及び高低測量図

①道路現況図

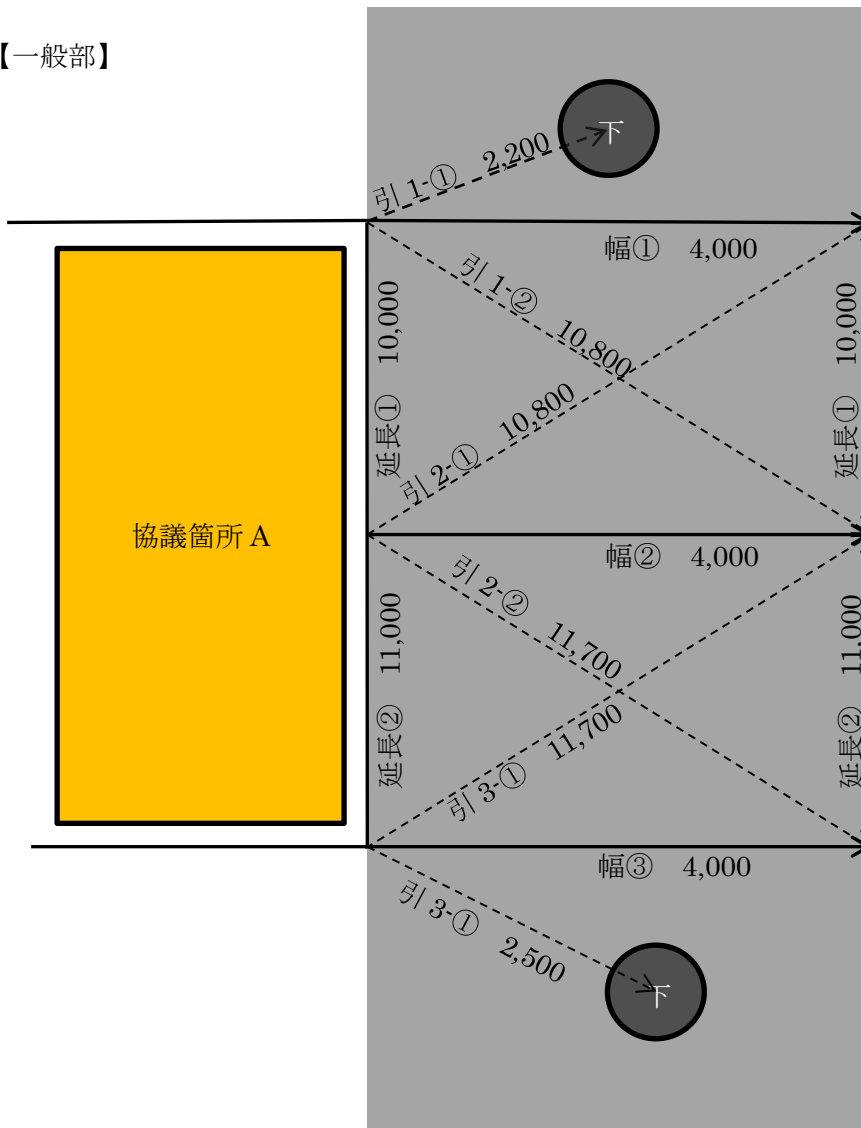
沿道協議現場前の区道幅員（道路境界・敷地境界）の杭や境界プレートを図面上に表記し、各点の引照点（ネイル・ペイント・刻み等）を3点以上（人孔・電柱・L形などの構造物）設けて道路幅員の変位を管理します。

幅員管理は道路区域の端と端を結んだ幅員で管理して下さい。工事車両の出入口や車両の走行部分に引照点を設けた場合、夏場のアスファルト舗装の熱ダレや重量車の度重なる走行で引照点が動く可能性があります。必ず道路の端または構造物で引照点を設けて変位を管理して下さい。また、各点の写真及び幅員測量状況の写真を添付してください。

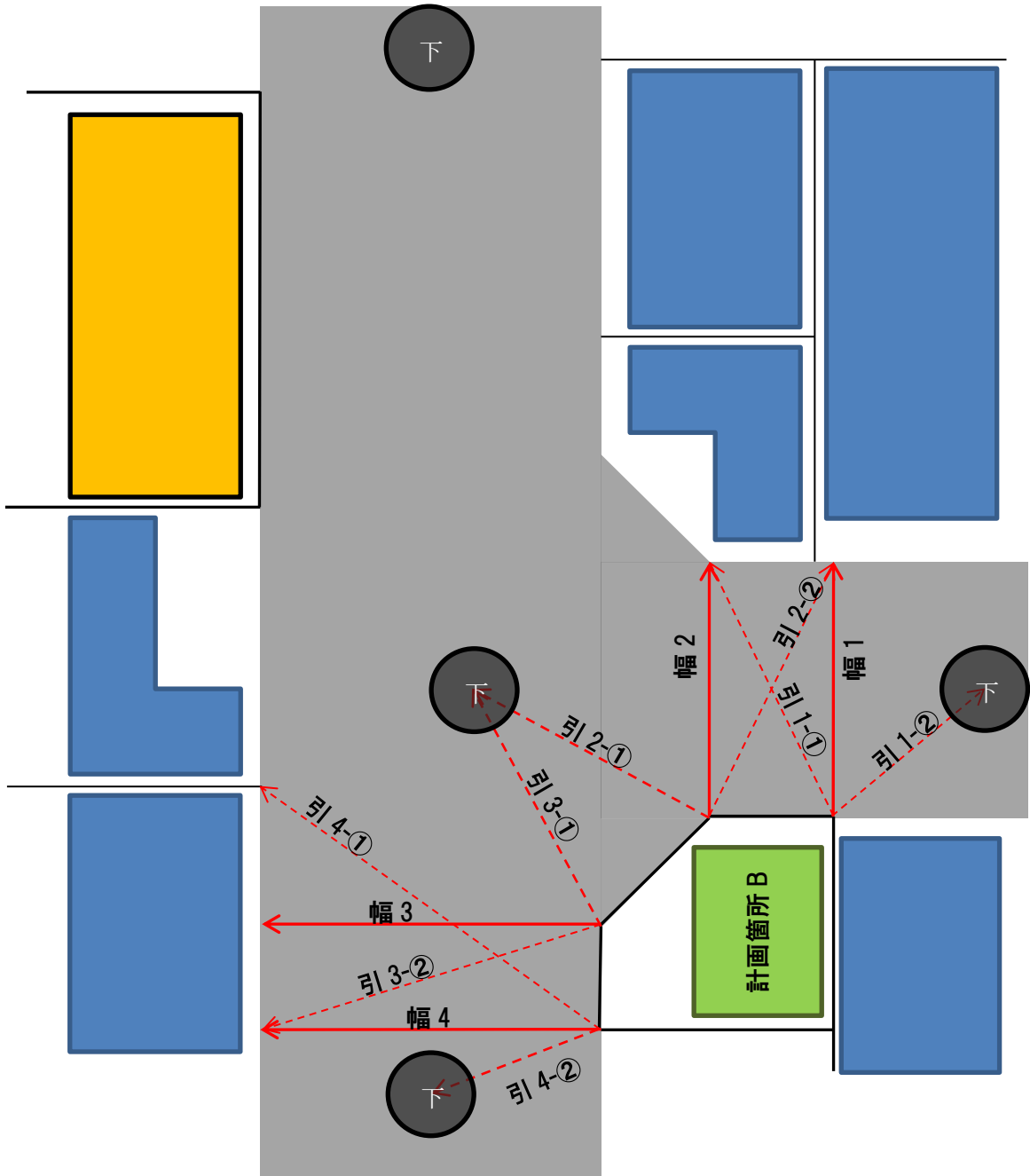
なお、沿道掘削延長が 20m以上の現場は適宜任意の点を設置し道路幅員の変位を管理して下さい。

(道路現況図例)

【一般部】



【交差点部】



②道路高低測量図

高低測量図については、道路現況図で幅員を管理するために設けた点で測量し、現況高さ測点を図示し一覧表を表記して下さい。

測量する点は道路の端（沿道協議現場前のL形）、道路反対側の端（L形などの構造物）道路中心の各三点を境界の折れや曲りごとに高さを測定して下さい。

なお、交差点に面した協議現場については、交差点部の高さも測定して下さい。

